

新郎 新婦 トモ

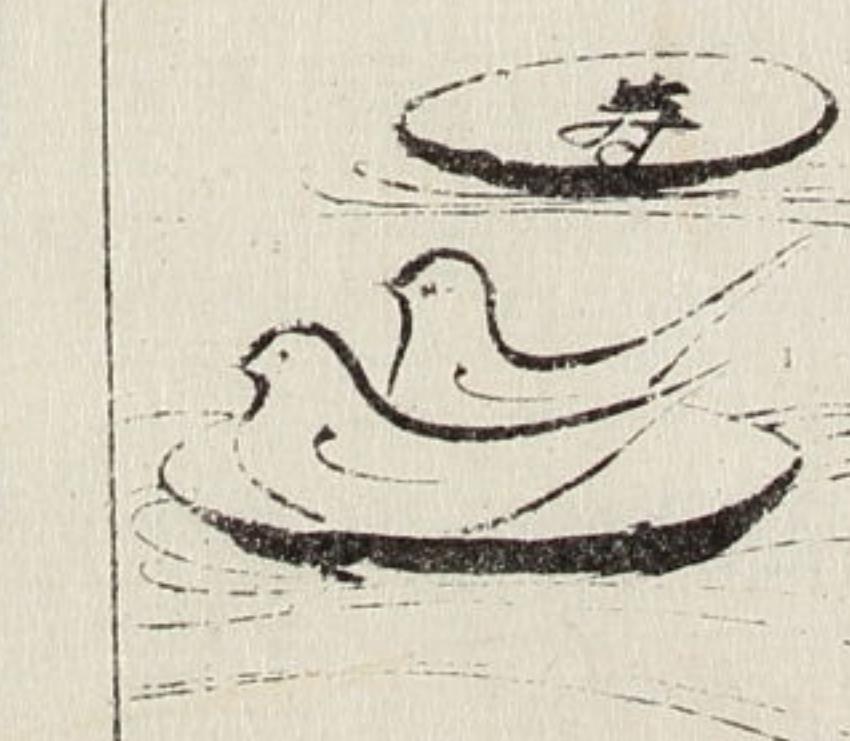
次第に手を取る事  
味わいながら此の  
そばを居ます



新婦子  
紅毛二鵝  
鶯子花冰  
紅袍子



御  
は  
れ  
る  
と  
御  
ま  
れ  
る  
水  
の  
含

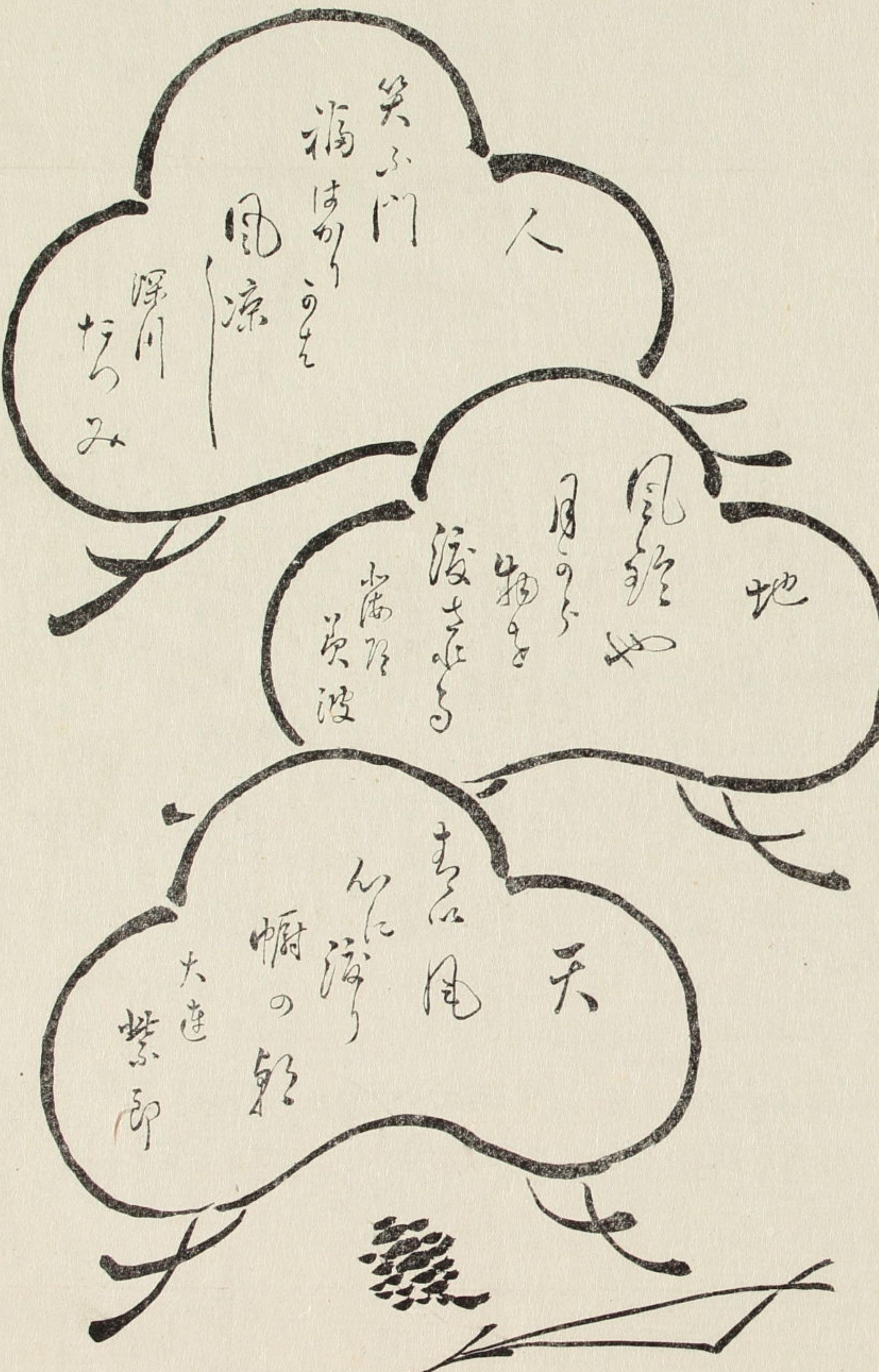


作  
草  
鋼  
八  
嘴  
清  
原  
波  
邊  
之  
多  
唐  
氏  
將  
軍  
奏  
夏  
混  
眾  
總  
福  
意  
渡  
邊  
五  
宋  
松  
塘  
祝  
賀  
遷

波辺の島居屋民村貢税  
東夏混歌

かの處に、嘗てのをと離れて、  
嫁ぐ人、渡みゆくや初陸  
御神の後、其の支流ある川の、  
浮きぬくの舟泊、此生の内而  
御はすも、もも三つ時に足る、  
御の音、もも度るら、夏の月  
抱ふも、夜に渡ふたは、清き水  
御に向ひと思へぬ名なる娘、老い  
ゆく、古の慶、翁か、友の河  
夢の雄よ、雄よ、川四び、河る  
娘や、那中、森の傍、  
夜の、のり花の、ゆきや、渡  
子すや、舟を、自の、ゆきや、船、  
落葉、藉さむとも、ゆきや、と、  
まく、まく、まく、まく、  
葉舟、締る女、ゆきや、

下川羽下川宏柄京宏信柄革岩柄川吉光和川下  
吉侯後總侯代東都代少島陸代本侯江代山侯理  
和高秋演御一桑寧里梅好品秀惟仁新開志松而  
吉風仙壁山志善之机笠风雨泉多风心风圃同心



仲下信川玄鶴草仙下之 川櫻、川岩、川上岩田千岩川  
東  
因緣方保手直就名號酒 侯宿 侯牛 侯陽侯惠弟代復川原山  
曉深梅仁學武惠義格不 陸之南游如浮雲秋綠曉天  
日  
山體坐鳳御局亦男丘淮 華坊子多喜鄉多山國周華自牛字  
草字號景之水羊

卷之三

紅樓夢子細說選

は家を誰か借るや和林  
父も母もとめて母もや女の方  
の所に宿す御奉事まである  
物語をもと放つて月の船車を  
おみの家を尋ねまづ御子が立  
あらゆにゆきのぬゆくと御子が  
御の字たびに千代や草子もめ  
まわの波むやうあるす、おほきもめ  
えの音がいにゆせて森のあ  
田のもののが軽く匂いや岸の草  
場の竹を消えて春の弱  
人ふるえの家とらひとく。時節は  
旅の如の少く、または夏  
のものむすせをひく。彼等がは  
娘の字をやせぬ梅の匂いが  
年少の株の強さに禱事も手  
に触りて此をかぶ  
五 客一章  
中着の御着産や館の  
真衣のうちも御着産や  
度にあらゆる山河よりお人水  
をもる。男の子を産めて病を治

川西小下母 碧涵川之玄涵只信玄下涵川心玄川涵川大川力涵  
不  
侯高川那子 埠布侯涵代高代多代孫高侯名代侯高侯叔侯川高  
一閭青雨美 千翠微石一桑里梅閑移壁鄰森松博園因抱春正好  
涼生月以友 送本山涯去深期望凡丘自半男中舍生女日高天風

御譜八嘴達摩草  
後山人之子也。唐武宗時，有僧人詣京，賀有集。  
美夏溫歌。○然一福山僧，遍山聖家之一內一字。

下川羽下川宏柄京宏信柄哥岩柄川吉宏和川下  
吉侯後孫侯代京都代少室陸代本侯江代山侯理  
和高秋深微一柔宁里梅好石秀性仁新閑志松而  
李鳳仙隱山志善之帆笠凡雨泉多風心凡圃同

坤下信川之弱草仙下之 川根、川宗、川上岩间千岩川 路川東  
田裕行保手直井名猿酒 原修 侯中 侯孫侯直年代俱川保山

曉溪楊仁孚惠義格石  
陸之南徐如學雲秋綠壁  
山體空凡御物亦宜惟  
華坊子多喜御多山國周華向牛  
草劍溪之水羊

下大根磐川内矣萬千走崇常京御羽比下宏原振草和京  
山城接博侯島代山島系少代陸都島始於李代日本山城  
山川代侯

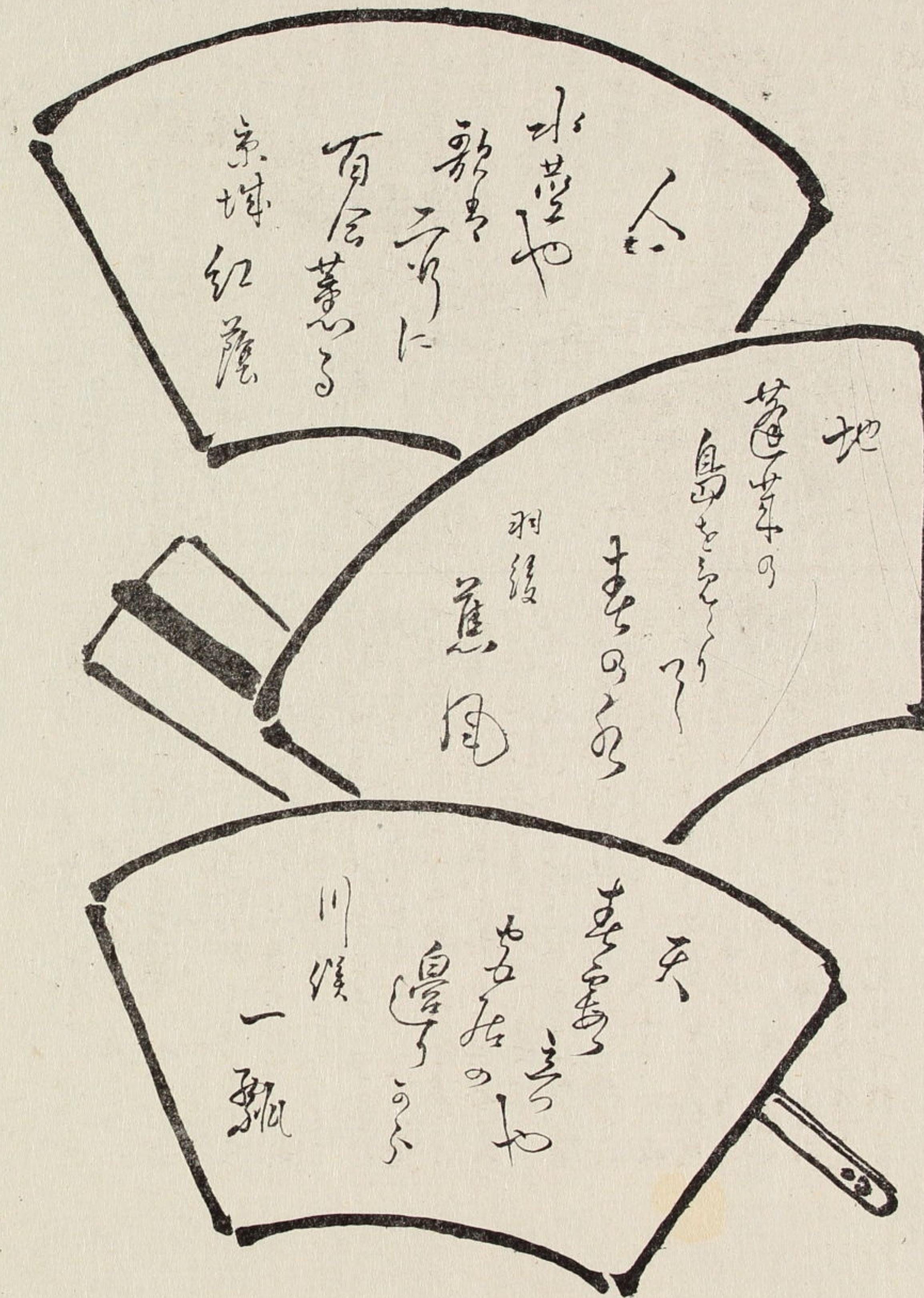
風情子午曉南家  
萬竹天影秀紅雲  
碧秋美和蕉  
夕  
た竹松花柳  
道林  
萬風坊送月枝月洋升字山泉而上  
未仙波男翠みの雨石丸  
翠友

御様の牌に代えて

おの旗に伏して

御様の牌に代えて  
先代 渡邊水道舍  
御端子代へやうん縁で不肖私の結婚に  
對して懇く時節まで刊行せられて  
同慶を蒙つたことを事は實に御見じて  
の光景、而已ならず草添き僻邑に住む  
身の冥加此上より次方で感謝をす  
等代に心厚きが故才であります。  
之は爰すとて私に諸君と共に申縁勧  
利以本諸友の席末を汚しておわがち  
俳諧の縁であると信して縁はゆでのり  
をよしわら誠心誠意に爰に諸君の面  
前に告向へたと思ふ事があります。併  
思ひぬぬまでもうまは迎迎満  
たのであります此美縁を默々裡に埋め  
去るかくまふ生をまづ詔誥を以て  
發表する次第であります。  
このへすん達も時局まで出て不肖  
私の婚儀を祝賀されたらふ事は、や  
は松塘先生と私と何う密接せ平保多  
く

は草木を観てでもある種にお思ひでせうが  
やうが驚く所！先まとれとはまだ一  
念の面晤もあつたが全く日暮御  
の方なのです。終てお彼の互通もなく  
只毎おれ故鄉へておれ位のものなのです  
私の友人の如きも寧ろ意外に思つて私  
の幸運を羨望する者多しです。而して先生の仰  
る鄙を也の善あやしくかりにも、實に確  
の詫なに」あはは放てお詫を問ふ  
お早せに禱祈吉凶をお尋がお聽くみ  
たいとあや希ほむる所あります。  
併しお早いや心地ではありますか。ま  
さに軒間透溝に拘りて  
獨り他處に外人あると京事は詳く甚  
ぢい次第であります。又お宿先生は甚矣  
矣あは下に清少の寄稿を若まと見る  
諸君の芳きを感謝に歸ります。此の  
て思はず雄れず下に詔卒かよとほお  
の事でせう。蓋に松浦先生の言葉を  
お詫語あれゆき感泣百拜も  
る次第であります。



八事ん達改歌に就て

# 八百人達改歌に就て

八百人達も本源法家の御眷顧を以て夏に  
才十軒を登りする事となります。まがのの  
故もかく此は妙に歌名を重て見なくては構が  
きのです。決して今の私が悪くも本氣に入ら  
ゆるをなやく。又既に古より  
ものでありますから必ず勢の推移に適合するも  
せあらわい諦めです。只何の謂もなく政歌がし  
て見ゆくてたまら無いのです。或も主幹一派の  
奔放癖も或は何苦かの暗示が知れぬのです  
彼のむらさきかぶのひすから強いて遙らはずむ  
仕とよじてほかせていふ。改歌とちふ事に決定  
したまう。併しつラ體の歌を要求する事も  
たけもこちらに一往させて貰わねを望ります。アレ  
こと種々詮議を交へますた。歌のやの小石様に  
やりと墨を浮かせる様な名を真ツ平です。失  
張八百人達とちづく様な古雅な味のあります。簡  
潔にてて或ひ意味を語るとかふ若が歌い出  
す。そこで「かもく歌」とかふ名を得ました。あ  
尾歌ともふるのは苦心やがてか又は急変お出  
事事を觸れたなりです。年高より年寄は少く  
知る者ですが。丁度江戸の席かの様な事です。

見て取らつて下刷を以て江戸の所中を走つて  
歩行いたまひです。今ハすん強凶を或る學者  
が「古魂新才」と評されます。實に政界し  
て會へ、並に古魂新才の宴を擧げまとと思ふ  
ます。お詫家諸君も共に日々而助力あらて  
経日の如き讀あらん事希望して止まぬ事  
であります。

さて旧名笠置山は地勢上まほろの方へ保有  
一里を考へであります。

遅刊に就て申詫ひ  
去る五月十五日を以て〆切たる事臨時雖は  
漸く二箇月の長時日を以て刊行を了事  
とす。此在甚遅刊りたる故のまゝは  
折りより主幹の病弱に呻吟するあり或  
は極諱に意の限りを寫さざる事  
の諸事情を餘儀なくせしめて此ちの的  
遅刊を解てするの止む無きに至り  
併し、下り此遅刊を禳し生態を敵て  
するのみは要も主幹の不徳の致たるよ  
裏に引責、陳謝仰御百遍を辞せぬまづ  
大正八年七月申詫

主  
乾  
譜  
卷

やはては段 初篇俳句叢書集  
入花(志代達貴)

卷之三

拾句一組金貳拾錢  
餘八句每以壹錢增

天賞（金壹圓）地賞（金八拾錢）人賞（金五拾錢）  
外五客（金四拾錢）相當の美賞を呈す。  
三才五客入選吟も中村和吉画伯の鉅画を記し  
特別稿一掲載す。

餘興擢

○互撰用句  
課題(涼し)  
入花一句  
金五錢家

○ はめひ俳

墨あくをいそかに

前句は夏季題を用ひ上五字と下五字  
とを、後句を中文字（一題不要）を自作して  
はじめふ完全の一句を作ること。  
佳句二才五客へ美止常と墨す

國次上一切七月辛巳日

本誌代物  
壹冊  
飛脚傳兵  
貞母文

東京市渕川公園地十二号  
選者五味時雄  
印刷人中田治三郎  
主深川公園地十二号  
販行所萬友舎作句部

▲吟頌 ▼用紙ハ半紙前面作品のみ後面ハ経所  
氏名雅號明記の事 ▲正株、餘株及び鎌興  
欄各種は總て別紙に記す事 ▲鎌興欄の  
中の出吟者は入花外に詮代送昇者として  
必ず金於五錢添付の事、然らずを申詮  
を送らす ▲入花は考替の事。

■互撰規定 ■互撰句の選評は互選出吟者に  
限る但し自句自撰を禁ず ■選句は二才五客の  
八句抜きす ■採点は二才二点五客を一点  
定と 因此ある時を併順とする ■一切同上

④ 會員清規 ④

・會員は普通と特別の二種を置く。普通会  
員は会費として三ヶ月会金四於五錢を特別会員  
は毎月会金壹圓を維持費として貢水も尙納する事  
・二種の会員づは本旅を送附す。普通会員は  
今花一组金五錢余は一句一夢増、余興 欄を起立  
通す。特別会員は總て毎入花とす。特別会  
員も隨時入退可也。

